

牧師 中島 聡

「神は、あなたがたがいつもすべての点ですべてのものに十分で、あらゆる善い業に満ちあふれるように、あらゆる恵みをあなたがたに満ちあふれさせることがおできになります。」(コリント九・八)

≪二〇一六年の福音のはじまり≫

よく新薬や治療法が開発されると、「待ちわびる患者にとつて『福音』となるか」と言われるように福音とは「良い知らせ」のことです。しかし、「お知らせ」だけで、その事実・実行がなかったなら、「とんだがっかり」ですね。聖書が知らせる「福音」はどうでしょうか？

聖書の福音とは、第一に「神愛による永遠の命」です。「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである。」(ヨハネ福音書三・一六) 神の独り子イエス・キリストは、この福音を成就するために、十字架に架かれ、御自身の命をもって私たちの罪を贖い、赦し、永遠の命を与えて約束してくださいました。この出来事は、キリストを十字架に架けたローマの百人隊長が見届け、「本当に、この人は神の子だった」(マタイ福音書二七・五四)と告白しています。そして、第二に「神愛

による永遠の命」を信じることによって生まれる「隣人愛」、互いの命を尊ぶようになるということ。一人でも多くの人が幸せに生きていけるように祈り、行動することです。これも、マザー・テレサ、キング牧師、現在上映されている杉原千畝、のように枚挙にいとまがありません。この国に義務教育法を制定して近代化の礎を築いた根本正衆院議員については、先日、林のぶ子姉の告別式の後、のぶ子姉の弟君、犬飼護郎さんから「私の所属する安藤記念教会に根本兄がおられ、私は会ったことがありません」とのこと、より一層、クリスチャンが為してきた「隣人愛」を身近に感じることができました。

≪清水ヶ丘教会の福音≫

清水ヶ丘教会の福音とは何でしょうか。第一に、「神愛」と「隣人愛」の福音を証するための礼拝・祈禱会を守り抜くことであり、礼拝・祈禱会に一人でも多くの人を招くことです。礼拝遵守の決意、説教、讚美の豊かさが大切です。少子化の時代ですから、なおのこと子ども教会の礼拝、白百合幼児学園のキリスト教幼児教育・保育を通して幼な子と保護者に福音を伝えることです。高齢化の時代になりましたので、教会にエレベーターを設置し、高齢者車椅子の方をお迎えできるようにすることです。青年も教会に来やすいように新しい讚美、礼拝の在り方を求めていくことです。豊かに祝されたゴスペル・クワイアを子どもたちのためにも開いていくことです。「そんなに沢山のことができるだろうか」と思えるかも知れませんが、二〇一六年の教会年間聖句の通りです。「神は、あなたがたがいつもすべての点ですべてのものに十分で、あらゆる善い業に

満ちあふれるように、あらゆる恵みをあなたがたに満ちあふれさせることがおできに」なるのです。なんとという素晴らしい福音でしょうか。ただし、一つの約束があります。

≪福音のために種を蒔く教会≫

「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。」これは今年の年間聖句の前に語られている御言葉です。福音の成就のためには、惜しまずに豊かに蒔くことが大切です。それができるのは、「神愛」に満たされているからです。真の信仰にあるからです。二〇一五年、私たちは、「倉持芳雄牧師召天二五周年記念礼拝・記念行事」を主にお捧げし、「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は、束ねた穂を背負い、喜びの歌をうたいながら帰ってくる。」(詩編一二六・五〜六)との福音が真実であることをこの目で見ることができました。

もはや恐れることあらじ、です。主は旧約の昔より「あなたがたは恐れてはならない。おののいてはならない。」と何度も繰り返し語りかけておられます。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ福音書一六・三三) 私たちに恵みを満ち溢れさせることがおできになる「勝利の主」を信じ、新年も豊かに福音の種を蒔いてまいりましょう。ハレルヤ!